

楽聖生誕250周年の幕開けにドイツの名門交響楽団が来日！ 豪華ソリスト陣によるオール・ベートーヴェン・プログラム。



2020.3月来日
ジュリアン・ラクリン指揮
ミュンヘン交響楽団
(ベートーヴェン生誕250周年記念)

ピアノ：モナ＝飛鳥

例年にならない暑い夏となっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。くれぐれも熱中症に気をつけてご自愛ください。さて、昨年9月にニュースレターを発売して以来となりますが、多忙にかまけて止まってしまいました。当初かかったように、「私たちが自信をもってプロデュースするアーティストの魅力」を一人でも多くの方々に知っていただくこと、コンサートの企画・制作・営業の仕事を通じて得たこと・学んだことを紹介し共有することで業界の発展につなげて行くこと、また皆様とのコミュニケーションを増やすこと」を目的と考へ、あらためて定期的に発行してまいりたいと思っております。

再開の機会にはいささか重い話となりますが、この原稿を書いている今日は終戦記念日にあたります。私の父が作曲家で、広島の子供の頃からその体験に音楽を直接聞く機会が何度かありました。20代で被爆した真実井房子さんは「あの日、焼け野原に死体や死にかけた人たちがびっしり横たわっていた。その時の助けて」とつぶやく人々を踏みつけて逃げたことが忘れられず、今でも罪を感じている」と話されており、愕然としました。被害者にも関わらず罪の意識を背負って長い月日を過ごしてきた重たい事実涙を禁じ得ず、今でも語った当時のその面持ちが忘れられませんが、真実井さんも既に他界されましたが、73年の月日が経って急激に戦争のことが世の中から忘れ去られています。後世に語り継がなければならぬ大切なことと思ひ、手短ではありますが小欄で触れさせていただきました。

戦争と音楽といえば、ドイツのドキュメンタリー映画『帝国のオーケストラ』では、フルトヴェングラーがナチ支配下のドイツでヒトラー政権に寄り添う姿勢を見せながらも、水面下で多くのユダヤ人音楽家をかくまっつて亡命させた様子が描かれていました。中でも印象的だったのが、ナチの大会でベートーヴェンの運命交響曲を指揮する彼とベルリンフィルの演奏があまりにも感動的であったために、ゲッベルス以下ナチの高官や兵隊たちが固唾を飲んで演奏に聴き入り、圧倒されひれ伏している実際の場面。音楽がその力で独裁者たちを一方的に支配したシーンでした。

戦争とは異なりますが、東日本大震災の11日後、当時の仙台フィル指揮者の山下一史さんが「人々から求められる時が来るまで待つべき。でも音楽の出番は必ず来る」と日経新聞のインタビューで語り、しばらくすると多くの音楽家が被災地に駆けつけて人の心を癒すなど、その通りのが起こりました。

市場原理が強化され、趣味趣向が多様化する中でクラシック音楽の価値が見えづらくなっている今の世の中ですが、右の例を挙げるまでもなく芸術には普遍的な価値と大きな力があります。そして、このような時代だからこそ音楽に開ける私たちは素晴らしいものを一つでも多く世の中に提供し、やはり後世に残していかなければならないと考えます。そうしたい思いを一人でも多くの方々と共有したいと思ひ、固い話にはなりませんが冒頭に述べさせていただきました。

テンポプリモ ニュースレター第2号発行によせて

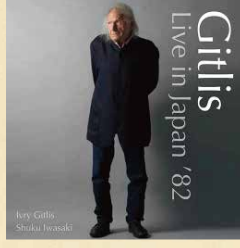
2018年8月15日
株式会社テンポプリモ 代表取締役



中村聡武

CD 「ギトリス・ライヴ・イン・ジャパン'82」

今月のおすすめ CD
イヴリー・ギトリス初来日・初公演の貴重な録音。伴奏を務めた岩崎淑さんの自宅書庫で発見された、加茂文化会館でのリサイタルの全曲を収めた貴重なテープがCD化され、8月に発売されました。96歳(!)となった今も演奏活動を続ける大巨匠。全盛期のこの頃の演奏は凄まじいものがあり、バルトークの無伴奏ソナタの超絶技巧は強烈というほかはありません。今でもよく演奏するブラームスのソナタ第3番や、クライスラーの小品は36年前のこの頃も今も変わらず「ギトリス節」全開で、9月の来日公演で聴き比べられるのも楽しみです。
ギトリス・ライヴ・イン・ジャパン'82(キング・インターナショナル)KCC-054



ナニこれ!? 変なもん 見つけました! vol.2

変なもんといったら、まじめに看板かかげて営業しているお店に失礼かもしれません。「カラオケ ナック・カラヤン」。福島に営業に行った帰りに見かけました。大衆的な「スナック」と帝王「カラヤン」の言葉の組み合わせ、強烈としか言いがありません。そして建物はあのベルリン・フィルハーモニーのようにも見える? ママさんと一緒に「第九」「モツレク」を絶唱しましょう!

今さらキケン! 舞台用語集 vol.2

難易度★ 「緞帳(どんちよう)」
舞台上にある、客席と舞台を隔てる幕のこと。漢字で書くのは難しい。

難易度★★ 「アゴアシ」
アゴは食事、アシは交通費のこと。マクラ(宿泊費)も共に使われる。(例)アゴアシ予算書から抜けてるよ!

難易度★★★★ 「A面・B面」
公演の前半・後半のことを示す。カセットテープのA面、B面から来るが、テープの衰退により死語になりつつある。たまにベテランの舞台さんが言うとう懐かしく、嬉しくなる。

Stage report 公演レポート~海外編~

シズオ・Z・クワハラ (指揮者、2018年7月30日/ウラジオストク・マリンスキー劇場)

ロシアのプーチン大統領が極東の要衝として重要視しているウラジオストク。経済・文化面でも力を入れており、多くのアジア系の企業が進出し、町も急激に発展しています。その中心に文化の拠点となるマリンスキー劇場が数年前に建設され、数多くのオペラ・バレエ・オーケストラのコンサートが行われています。サンクトペテルブルクの同劇場も率いるこの音楽監督、ヴァレリー・ゲルギエフはアジア系の指揮者、シズオ・Z・クワハラに白羽の矢を立てて起用、2度目の登場となった7月の公演ではヴァイオリンの三浦文彰さんも共演しました。メインでは情熱ほどばしるシェラザードを披露し大熱演、地元観客に受け入れられて絶賛を博し、終演後にはオーケストラから首席客演指揮者に推されました。日本からはたったの2時間半、最も近いロシアにぜひ行ってみませんか?



左からコンマスのナストゥリカ、三浦文彰さん、クワハラ

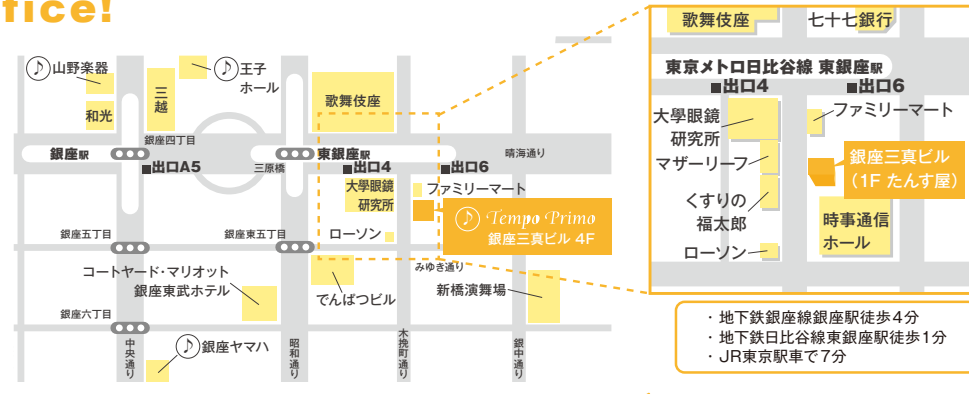
ニシエヒガシエ 全国ホール探訪 第2回 東京・武蔵野市民文化会館

この仕事をしていて、同会館の名前を聞いたことがないという人はいないのではないのでしょうか。年間約100回の公演数もさることながら、その多くが完売。徹底的にコストカットを図り、チケット代を極限まで安くしています。印刷物も業者に出さず、担当者がパソコン(当初はワープロ)で作るチラシに強烈なキャッチコピーをこれでもか、と載せて差別化を図るなど、業界の常識を打ち破って独自の方式で公演を行っています。これまでに「サントリーホールで13,000円、武蔵野では5,400円!」「銀河系最大の天才(ハインツ・ホリガー)」「助成金炸裂!不退転の覚悟で臨む日本公演!」で業界関係者や観客の話題になること度々。一方で招聘するアーティストは有名無名にかかわらず超一流。ぜひ一度満席の客席で公演をご覧ください。

Welcome to our office!

近くをお通りの時はアポなしでも結構ですのでフラリと立ち寄ってください! 歌舞伎座が目印。

株式会社テンポプリモ マネジメント・オフィス
Tempo Primo Japan Co. Ltd. Management Office
〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-19
銀座三真ビル4階
TEL: 03-3524-1221
FAX: 03-3524-1222
E-mail: info@tempoprime.co.jp
www.tempoprime.co.jp



経営理念 株式会社テンポプリモは、全従業員のもの心両面の幸福を追求するとともに、3つのA(Artist, Audience, Art)に尽くし、芸術の力で世の中を明るくしてゆくことを経営理念と致します。

2019年度弊社アーティスト情報!

2019年度はオーケストラが当たり年(1)で4団体が来日します。年度明けの5月には小林研一郎指揮・ハンガリー・スタベスト交響楽団。炎のマスター・コバケンさんが45年前にハンガリーでデビューした時に共演した最初の楽団です。7月にはロシア国立交響楽団。シンフォニック・カペレがヴァレリー・ボリヤンスキーと共に3度目の来日。音楽界を震撼させた「チャイコフスキー三大交響曲(4・5・6番)一挙演奏のプログラムは今回で最後になるかもしれない、話題を呼んでいます。12月にはこちらも好評のキエフ国立フィルハーモニー交響楽団の8度目の来日。ベートーヴェン・交響曲第9番「合唱付き」とドヴォルザーク・交響曲第9番「新世界」

の豪華「ダブル第9」の2曲プロで2020年を迎えます。その2020年はベートーヴェン生誕250周年。早くも3月にはジュリアン・ラクリン指揮ミュンヘン交響楽団が来日。ピアノに、アリス・紗良・オットの前、モナ・飛鳥を迎えるオール・ベートーヴェンプログラムはメモリアル・イヤー最初の大型注目公演になります。

ソリスト陣も充実。4月には何と96歳となるヴァイオリニストのイヴリー・ギトリスが来日。ヴァイオリニストは他に、10月にジュリアン・ラクリンとサラ・チャン等大物が続々。この他弦楽器では8月に、チャイコフスキーコンクール準優勝の名チエリス、アレクサンドル・ラム、5月にはハンガリーが生んだ超絶技巧の

デュオ、ヤボルカイ兄弟(ヴァイオリン&チェロ)が登場。また6月にはミュンヘン国際コンクール優勝のカルテット、アポロン・ミューザゲート弦楽四重奏団が姿を見せます。ピアノでは今年のラ・フォル・ジュルネで日本デビューを飾った20歳の天才少女、マリールアンジュ・グッチが10月に初のリサイタルツアーを開催。

管楽器では、シカゴ響とニューヨークフィルの首席を歴任するクリストファー・マーティン(トランペット)、昨年のデビューリサイタルで各地売場で大絶賛を博したジャスミン・チエイ(フルート)が20年11・2月に来日します。アンサンブル・合唱の注目は11・12月のチェコ少女合唱団「イトロ」。

高の少女合唱団と言われ、国際コンクールを32度も優勝しています。声楽アンサンブルではドイツから、ヨーロッパの人気を誇ると言われるアマルコルド・ミラクルヴォイスが11月に登場。パロツクのニューウエースを巻き起こしている北欧からはフィンランド・リコーダーカルテットが初来日を果たします。指揮者もヴァハン・マルディロシヤンの新日フィル、九響公演、マリインスキー劇場(ウラジオストク)で大成功を収めたシズオ・Z・クワハラ、初来日となるスラムウエル・トウヴェイの読響客演。新国立劇場での、ジャン・レヴィサム・ケニツクの神奈川フィルと名フィルでの「カナルメ」が決まるなど枚挙にいとまがありません。邦人企画もおススメ多数。



ロシア国立交響楽団(指揮:ヴァレリー・ボリヤンスキー、ピアノ:アンナ・フェドロヴァ)



キエフ国立フィルハーモニー交響楽団(指揮:ニコライ・ジャジュラ)



サラ・チャン(ヴァイオリン)



マリールアンジュ・グッチ(ピアノ)



アマルコルド(声楽アンサンブル)



アレクサンドル・ラム(チェロ)

通年邦人企画

フジコ・ヘミング(ピアノ) / 川島成道(ヴァイオリン) / NHK交響楽団メンバーによる室内オーケストラ、N響メンバーファミリーコンサート / 横浜シンフォニエッタ(山田和樹指揮) / さらさら♪クラシック・コンサート / みんなのうたコンサート / デーモン閣下が贈る「邦楽維新」 / 「幽玄悪魔」 / 言の葉コンサートシリーズ / 尾上松也「竜馬がゆく」 / 人気歌舞伎俳優によるトークショー / 坂東玉三郎、ほか



川島成道 デーモン閣下



チェコ少女合唱団「イトロ」



フィンランド・リコーダーカルテット



ヤボルカイ兄弟(ヴァイオリン&チェロ)

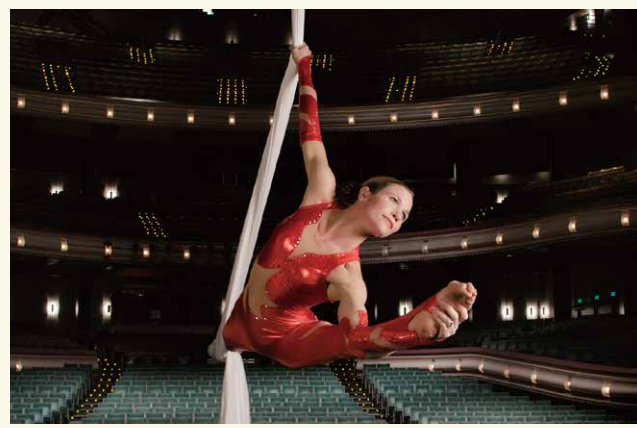


ジャスミン・チエイ(フルート)

Recommended Artist Vol.2

今月のイチオシアーティスト

シルク・ドゥラ・シンフォニー



毎月一人(一団体)を取り上げて紹介する「今月のイチ押しアーティスト」。今回は「シルク・ドゥラ・シンフォニー」です。シルク(=サーカス)とオーケストラのコラボレーションとしてアメリカで大ヒットし、今年1月の初来日ツアーでは全18公演のうち14公演が完売し大絶賛を博しました。フルオーケストラによる「白鳥の湖」「剣の舞」「天国と地獄」など名曲をバックに、シルク・ドゥ・ソレイユの元メンバーやワールド・チャンピオンによる世界最高クラスのサーカスの演技は圧巻そのもの。見せ場となるエアリアルの中空パフォーマンスでは毎回客席から大歓声が起こります。ステージにサーカスを持ち込むというアメリカならではの発想には驚かされますが、エンタテインメント性と同時に高い芸術性も両立させている素晴らしい公演です。

オンエア情報
8月27日(月)、28日(火)NHK・BSプレミアム「クラシック倶楽部」にて2018年1月に行われた東京公演が放送されます(AM5:00~5:55)。

Vol.2 今月のお役立ち情報

どうやる?アウトリーチ

文科省の通達でも奨励されているアウトリーチ・プログラムですが、「アーティストさんにこんなことお願いして失礼ではないか」と気になって中々頼みづらいという会館担当者の声を聞くことがあります。答えは、「心配ご無用。何でもご相談下さい。」リハーサルや公演のスケジュールに抵触しないかどうか配慮することは大事ですが、「世の中の役に立てるのなら喜んで」という人がほとんどです。学生時代にも施設での演奏を経験している演奏家も多く、頼まれて嫌な気には決してなりませんので、アイデアがあればぜひご提案下さい。弊社のアーティストも実績十分。ヴァイオリンの川島成道さんは幼少時に目の病気を患った経験から、公演の音が聞こえれば近隣の障害者施設での演奏会も頻繁に開催。チェコ少女合唱団「イトロ」は指揮者のスコバル氏が「合唱団員の教育のために」と、日本ツアーに際して地元合唱団との共演や交流会を積極的に行っています。私たちからもぜひアイデアを提案させていただきます。



震災の仮設住宅を訪れてコンサート(チェコ少女合唱団・福島)

2019 - 2020年の弊社企画

2019年	2020年
4月 イヴリー・ギトリス(ヴァイオリン) クリストファー・マーティン(トランペット) シズオ・Z・クワハラ(指揮)	1月 シルク・ドゥラ・シンフォニー 1-2月 ジャスミン・チエイ(フルート) 3月 ミュンヘン交響楽団 (指揮:ジュリアン・ラクリン、ピアノ:モナ・飛鳥)
5月 ハンガリー・スタベスト交響楽団(指揮:小林研一郎) ヤボルカイ兄弟(ヴァイオリン&チェロ)	6月 ボン・ベートーヴェン交響楽団 (指揮:ディルク・カフタン)
6月 ヴァハン・マルディロシヤン(ピアノ) アポロン・ミューザゲート弦楽四重奏団	6-7月 トリニティ・アイリッシュ・ダンス 10月 ザ・キングズ・シンガーズ 11月 ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団 日程調整中
7月 ロシア国立交響楽団 (指揮:ヴァレリー・ボリヤンスキー、ピアノ:アンナ・フェドロヴァ) ブラムウェル・トウヴェイ(指揮)	11月 ヘルシンキ大学男声合唱団 ほか
8月 アレクサンドル・ラム(チェロ)	
9月 フィンランド・リコーダーカルテット	
10月 サラ・チャン(ヴァイオリン) ジュリアン・ラクリン(ヴァイオリン)	
10-11月 ジャン・レイサム・ケニツク(指揮) マリールアンジュ・グッチ(ピアノ)	
11月 ヴァハン・マルディロシヤン(指揮) アマルコルド(声楽アンサンブル)	
11月-12月 チェコ少女合唱団「イトロ」	
12月 キエフ国立フィルハーモニー交響楽団 (指揮:ニコライ・ジャジュラ) ヴァレリー・ボリヤンスキー(指揮)	